２０２２（令和４）年度　上野高等学校（全日制）学校マネジメントシート

１　目指す姿

<table>
<tr><td colspan="2">⑴目指す学校像</td><td>１　生徒が学びがいを実感する学校
２　保護者・地域が頼りがいを実感する学校
３　教職員が働きがいを実感する学校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">⑵</td><td>育みたい児童生徒像</td><td>１　挨拶を大切にする生徒
２　気づきを大切にする生徒
３　命を大切にする生徒</td></tr>
<tr><td>ありたい教職員像</td><td>１　自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員
２　生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員</td></tr>
</table>

２　現状認識

<table>
<tr><td colspan="2">⑴学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</td><td colspan="2">○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立
○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活
○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績
○大学：学力と意欲の高い生徒の育成</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">⑵連携する相手と連携するうえでの要望・期待</td><td>連携する相手からの要望・期待</td><td>連携する相手への要望・期待</td></tr>
<tr><td>○ＰＴＡ：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供
○地域住民：情報発信と地域貢献
○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流
○地域の関係機関：地域人材の輩出</td><td>○ＰＴＡ：教育活動・教育環境充実のための理解・協力
○地域住民：教育活動への理解・協力
○小中学校：指導上必要な情報提供等
○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑶前年度の学校関係者評価等</td><td colspan="2">○国公立大学はもとより、関東方面の難関私立など関西・中京方面以外の幅広い選択肢を持てるような進路情報提供が必要である。
○第一志望の実現を目指して、夏から実践演習が行える教科の増加に向けてカリキュラムマネジメントを行い、コロナ禍におけるICTの活用を一層推進する必要がある。
○文武両道の伝統を引き継ぎ部活動では大きな成果を上げている。生徒が横のつながり強め、互いに夢を共有して励ましあう環境を作りの強化と、伊賀・名張地域を超えて情報発信に取り組んで学校の活性化に取り組む必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">⑷現状と課題</td><td>教育活動</td><td colspan="2">○文武両道の伝統があり、生徒の多くが勉強と部活動の両立を図りながら、一丸となって学校行事に取り組むなど充実した学校生活を送っている。熱心できめ細やかな学習指導と進路指導の結果、難関国公立大学をはじめ、生徒・保護者の高い国公立志望に答えており、芸術系大学進学など幅広い進路希望の実現を果たしている。
○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、気づきつながりあう活動は評価されており、今後も、いじめや差別を見抜き解決に向けて行動できる力の育成を図りながら、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組と合わせて、想像力・協調性を伸ばし、新たな課題の解決に積極的に取り組む生徒の育成を図る。</td></tr>
<tr><td>学校運営等</td><td colspan="2">○これからの時代に対応した学習に取り組めるよう、学際的な学びや地域に関する学びに重点的に取り組む探究活動の在り方を検討し、生徒が活き活きと学校生活を送る姿が、中学生や地域に広く伝わるように「開かれた学校づくり」を推進する。
○時間外労働時間の削減は前進したものの、「三重県立学校における教育職員の在校時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働が1カ月45時間以内、1年360時間以内を遵守できるよう、組織な運営で業務時間を削減する。</td></tr>
</table>

３　中長期的な重点目標

教育活動	１　目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』(その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。
学校運営等	２　目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「探究に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、いじめを許さない迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。 ３　目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
１　生徒が学びがいを実感する学校	**〇全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。** 【活動指標】 ・教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ・より深い学びを主体的に行えるように、すべての授業でICTの活用を進める。 ・生徒による授業評価年２回実施 【成果指標】 ・生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）90%以上 ・共同学習や個別学習でICTを活用した教員割合 80% **○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。** 【活動指標】 ・SSHの事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」をICTも活用し系統的に実施する	【活動】 ・教科横断的グループによる研究授業・授業評価を年２回実施した。 ・教科ごとでICT活用をテーマに計画書を作成し、事例報告をした。 ・生徒による授業評価を７月と12月に実施 【成果】 ・生徒の授業満足度(「とても満足」と「満足」の計)は1学年 90.2%、2学年 84.9%、3学年 94.5% ・共同学習や個別学習で ICT を活用した教員割合は 65% 【活動】 進学型インターンシップ ・一日看護体験（県教委　保健所主催） 本年度は中止 ・岡波総合病院主催の看護体験に二年生２名、三年生４名参加、甲南病院主催の看護体験に二年生６名、三年生２名参加 ・「高校生のための看護職キャリアデザイン講座」（三重県立看護大学主催）に三年生４名参加 ・一日医師体験（県教委主催） 本年度は参加者なし ・伊賀市IGABITO育成事業4期目指定。SSH事業と合わせて２月６日にみらいプロジェクト発表会	

<table>
<tr>
<td></td>
<td>【成果指標】
・「総合的な探究の時間」の授業満足度80％以上
・国公立大学合格者数、各クラス 10 人程度
・週末の学習支援の実施。土曜講座（サタスタ）7回、土曜自習室22 回
○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を推進する。

【活動指標】
・探究的な内容を含んだ授業を各科目の90％以上で実施
・高大連携先の開拓と卒業生・他校 SSH との協力体制の推進
・「みらい探究Ｒ」の授業運営方法の確立と体系的な指導体制の構築

【成果指標】
・生徒の各活動満足度各学年 90％以上</td>
<td>実施。
【成果】
・生徒満足度１２月アンケート
<table><tr><td></td><td>１年生</td><td>２年生</td><td>３年生</td></tr><tr><td>理数科</td><td>97%</td><td>96%</td><td>92%</td></tr><tr><td>普通科</td><td>88%</td><td>80%</td><td>90%</td></tr></table>・国公立大学合格者５６名
・理数科の検査 iGROW によるコンピテンシーは、、【認知】分野の「創造性」、【他者】分野の「表現力」「柔軟性」「影響力の行使」で上昇。

【活動】
・探究的な授業の実施科目の割合　100%
・理数科合宿を通して本校理数科卒業生との交流会実施
・東京キャリアアップツアー実施
・みらい科学館での先端技術の見学
・新しい連携先として皇學館大学による免疫実験の開催
・他校ＳＳＨと合同臨海実習参加
・課題研究にむけて１年次よりテーマの設定
・教科横断的な学際領域で探究活動に取り組み、忍者 STEAM と SDG’s の視点でのオンライン国際交流を実施した。
【成果】
・前項目と共通</td>
<td></td>
</tr>
<tr><th colspan="4">改善課題</th></tr>
<tr><td colspan="4">・ICT を活用する教職員の割合は４５％から６５％と大きく改善しており、今後も学習効果の高い活用方法の共有を図る必要がある。また、対面での交流活動が増える中、ICT を活用したオンライン交流の機会の創出が課題である。
・１年生は BYOD による学習端末の活用でみらい探究 F のポスターの質の向上が見られ、今後はデータの活用を伴った説得力のある探究活動の展開が期待される。
・教科横断的な学際領域での探究活動は、「解決意向」「自己効力」「影響力の行使」「組織への働きかけ」「協働性」のコンピテンシーに一定以上の成長が認められ、普段の授業や既存の教育プログラムへの反映とプログラム作りの継続が課題である。
・共通テストへの対応が一段落し、第一志望への合格力を高める指導を一層拡充する。また、東京キャリアップツアー等、関東および中部地域に進路の選択肢を広める取組は引き続き重点項目とする。
・普通科２年生の探究活動では多くのチームが実際にフィールワークを実施し、ICT も活用して充実した探究活動となったが、成果発表会とアンケート実施時期が重なることにより達成感の低下がアンケート数値の低下につながることがあり、アンケート実施時期が課題である。</td></tr>
</table>

（２）学校運営等

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th></th></tr>
<tr>
<td>２ 保護者地域が頼りがいを実感する学校</td>
<td>○人権教育を積極的に推進する。
【活動指標】
・人権学習LHRを各学年年1回以上公開
・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施
・全教職員が年3回以上実施するフィール</td>
<td>【活動】
・1学年は11/09、2学年は11/16、3学年は 6/29 に実施。事前事後検討会を実施
・全体研修は5/16と10/27に、小グループ研修は4～5月、2～3月に2回実施</td>
<td></td>
</tr>
</table>

	ドワークに1回以上参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生との人権交流会を年2校以上実施 【成果指標】 ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 **〇生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進する。** 【活動指標】 ・指導強化月間を年3回設け、あいさつ・身だしなみ、時間厳守、規律・安全指導を実施する。 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年１回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 【成果指標】 ・問題行動による特別指導件数を一層減少 **〇学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。** 【活動指標】 ・ホームページ・報道機関を通じて情報発信（更新履歴件数）年 100 件以上 ・生徒主体の学校説明会（体験授業を含む）年2回開催 ・小中校との連携、地域イベントへの協力 【成果指標】 ・令和 5 年後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率 1.1 倍以上	・フィールドワークは6/23、10/4に実施。昨年度に続き、今年度も感染症拡大防止の観点から、転任・新任教職員で実施。 ・3 年ぶりに人権交流会を 2 校実施 【成果】 ・人権サークルでは、2 年生 1 名、1 年生 2 名が、積極的に活動に取り組み、小学校との人権交流会では人権課題について自身の思いなどを発表した。 【活動】 ・制限が緩和され、感染症対策と両立して学校行事を実施でき、次年度以降に向けた成果となった。 ・文化祭の合唱コンクール復活に向け、歌唱指導と音楽・歌うことの楽しさを感じるアカペラ講演を皮切りに、各行事を中止せず進められた。来年以降に繋がる成果となった。 ・身だしなみが乱れる傾向に注意深く対応しているが、今後も職員全体で見守る必要がある。 ・スマートフォン等の端末利用による特別指導件数が昨年度並みで、課題である。今後も、一人１台端末に念頭に対応を進め、法律の理解など総合的な対策が必要である。 【活動】 ・冬休み前までにホームページの「上高ニュース」更新回数が約80回。年度末までには100件を超える予定。 ・全体の学校説明会を秋に午前・午後の2回構成で実施した。 【成果】 ・最終倍率　１．０1倍	
3　教職員が働き甲斐を実感する学校	**〇過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。** 【活動指標】 ・定時退校日を月１日設定し、定時退校できた職員の割合 70％以上 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 90％以上 ・部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 100％ 【成果指標】 ・月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数　０人	 【活動】 ・67％ ・82％ ・100％　終了時刻の改善等を実施 【結果】 ・72 名　12.2%(1 月末)　対前年 5%増	

	・年 360 時間を超える時間外労働の人数 0 人 ・1人当たりの月平均時間外労働 19 時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比 2.1 日増加（目標値 16.0 日）	・15名（1月末） ・27.9 時間 ・11.9 日　対前年 2.0 日減	

改善課題
・新型コロナウィルス感染症に関わる人権課題を中心に据え、社会の課題に「自分事としてどのようにかかわるか」の視点を教職員が重視し、ホームルーム活動や授業の一コマ・場面で「教師がみずから語り掛ける」ことに取り組んだ結果、生徒の重要度満足度アンケートの上位に人権学習が位置する結果となった。今後も、生徒と教師の関係を丁寧に紡ぐ言葉がけの意識化に取り組む。 ・一層の生徒理解を深め、生徒の自己指導力を高める指導を推進しながら、新しい上野高校像と理数科・普通科教育の魅力の発信と改革に取り組み、地域との連携と協創で貢献する。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○大学進学を目指す生徒にとって、伊賀地域の拠点校として、魅力ある学校づくりに継続して務められたい。 ○SSH の取組を中心とした探究学習に対して、生徒の満足度評価が高く、取組の充実度が伺える。高校卒業後の進路選択と結びつくよう取組を改善し学校の魅力の向上を図る必要がある。 ○探究的な学びや教科横断的な学習が、学力の向上と進路実現にどのような成果をもたらすかを明らかにして一層活性化を図ってほしい。 ○文武両道を引継ぎ、コロナ後は伝統ある行事を復活・充実させることにより、卒業してからも誇れる学校に一層注力してほしい。 ○引き続き、生徒が個々に抱える悩みや不安を相談できる学校づくりに努めてほしい。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○BYOD 方式の学習端末活用が進み、高い活用率を実現している。みらい探究 F ではポスター発表に活用する生徒が増え、教科では一人一人が英文のまとめ活動を行うことや、WEB 検索を利用した地理や歴史の授業など、理解を深め知識に広がりを持たせるなど活用が広がっている。プログラミングにも活用される一方、データや説得力のあるグラフの活用などデータサイエンスの要素を取り入れながらこれまでのアクティブラーニングの成果と合わせて学びに向かう主体性を向上させる教育課程の改善に取り組む。 ・教科横断的な探究活動の成果を一層発展させ課題解決能力の向上を図る中で、自己効力感を向上させる取組のカリキュラム化に一層強力に取り組む。 ・理数科・普通科ともに社会人として「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら主体的に判断できるキャリアプランニング能力を育成する。
学校運営についての改善策	・SSH 事業では課題研究と地域探究型の相乗効果による取組が評価されており、中間評価で明らかとなった課題に取り組みながら、「国際舞台で活躍する科学技術人材の創出」に向けて国際交流を進める。